

おいでん・さんそんSHOW

6月号

2018.06.01発行

『お金<自然・人とのつながり』な働き方って!?



特集 多様な「はたらく」と「暮らす」を体感しよう!

見学ツアー開催

都会では会社に勤め仕事を効率よくこなし、余暇はプライベートと家庭を充実させるライフスタイルが当たり前となっています。一方、豊田の山村では、豊かな自然と人の繋がりのなかから生みだされる新しい働き方・暮らし方が始まっています。今回、参加者にそのうごめきを肌で感じていただきつつ、ミライの「はたらく」と「暮らす」はどんな姿か、話しあっていたまします。その一日の様子をご紹介します。

つくラッセルで見学ツアー
4月25日、旭地区にある旧築羽小学校を活用した「人材創造拠点つくラッセル」を会場に、多様な「はたらく」と「暮らす」を体感しよう！見学ツアーを開催しました。おいでん・さんそんセンター、愛知県交流居住センター、(株)オカムラの共催で、日頃の生活と仕事について問題意識を持つ方や、CSRや人材育成を検討されている企業の方などを募り、16人の方に参加いただきました。企業の役員や社員、個人事業主、起業をめざす若者、田舎への移住希望者など、様々な立場の方々にお集まりいただきました。



自身の移住と地域との関わりについて話す戸田さん

「稼ぎ」でなく「暮らし」午前第一部では、2011年に旭地区へ家族で移住し、「つくラッセル」の代表機関である(株)Measayの戸田友さんに講話いただきました。

2009年に旭地区で始まった官民学連携「若者よ田舎を目指そうプロジェクト」事業の受け皿になったことが移住のきっかけだったこと、有機・無農薬による農業経営ができる人材を育てるのがプロジェクトの目的だったが、「お金を稼ぐ」発想から入ることで様々な問題が起き、事業が立ち行かなくなったこと、そこから、「稼ぎ」でなく「暮らし」を第一にする感覚に変化したこと、そして、「地域の命運と自分の人生を重ねて生きる」ということが心地よく、地元になくては

vol.43 人口減少社会と向き合う

今年3月30日に、国立社会保険・人口問題研究所(社人研)が「日本の地域別将来推計人口を公表した。2045年には7割以上の市区町村で2015年に比べて人口が2割以上減少する。人口減少が少くない都道府県

センター長のミライのフツツに
向かって!



センター長 鈴木辰吉

015年を100とした場合の指数は94.5と推計された。日本全体の指数は83.7、豊田市は、人口減少に伴う問題が少ない自治体として胸を張ってもよいだろう。そして、地方都市でありながら、このような基盤を築いてくれた郷土の先人に感謝しなければならぬ。

国は、人口減少への対策として「地方創生」を掲げて地方の努力を喚起しているが、減って

く人口の奪い合いに終始しているように見える。政治家もまた、人口の維持確保の政策を掲げて選挙を戦い、夢を振りまいている。

社人研の人口推計は、経済成長、人口増加、地価上昇という成長軌道が、真逆の縮小軌道に転じたことを示している。少し遅いか早いかだけで、東京も豊田も人口減少社会の波に飲み込まれていくのである。縮小軌道

の先に明るい未来を描くことが今求められている。

人口減少著しい豊田市の山村地域は、30年後の日本社会を映している。高齢化、空き家、「ミニニティ」や社会基盤の維持など課題満載の未来社会が既にここにはある。誇大妄想と言われようが、ここからミライの幸せな暮らし、持続可能なまちづくりのモデルを発信したいと思う。

イベント情報

子育て耕縁会『もっと子どもを好きになる』

「子育て」って本当にむずかしいですねえ。思うようにいかなくてイライラしたり、落ち込んだり、「これで良かったのかしら」と不安になったり。このような思いを抱えているのは、あなただけではありません。多かれ少なかれ、どの親も同じような悩みは持っているのです。

子育てに必要なヒントを学んだり、子育て中の皆さんで色々お話ししてつながりましょう。

- イベント名:かよさんの子育てワークショップ 子育て耕縁会『もっと子どもを好きになる』
- 講師:鈴木佳代(すずきかよ)アクティブ・ペアレンティング・ジャパン認定トレーナー/ラフターヨガ・インターナショナル・ユニバーシティ認定笑いヨガティーチャー/とよた市民活動センター登録団体『アティテューディナル・ヒーリングとよた』代表
- 日程:①7月11日(水)「イライラしてしまうのはなぜだろう?」愛情たっぷりの子育てをするために②9月12日(水)「子どもを褒めるとき叱るときに使ってはいけない言葉」何気ない一言を見直してみよう③10月10日(水)「自己肯定感を高めるために」もっと自分を好きになるために④12月12日(水)「パートナーにわかってもらえないのはなぜ?」より良い夫婦関係のために(夫婦脳・ホルモン・コミュニケーションなど)

●スケジュール:10:00~10:30笑ヨガ、身体の使い方について 10:30~12:00親子交流カフェ ※終了後、13:00まで会場で昼食をとることができます。

●場所:豊田市社会福祉協議会足助支所まめだ館(豊田市足助町東貝戸10番地 百年草横)

●参加費:1回300円(お茶菓子付き)

●定員:各回10名程度

●問合せ・申込先:おいでん・さんそんセンター(担当:小黑)Tel:0565-62-0610 FAX:0565-62-0614 mail: sanson-center@city.toyota.aichi.jp 次の項目をご記入ください。

①件名「子育て耕縁会」②参加日③連絡先(携帯アドレス)④子ども同伴の場合、人数と年齢を明記

●主催:おいでん・さんそんセンター次世代育成部会(住所:豊田市足助町宮ノ後26-2足助支所2階)



昨年の
子育て耕縁会の
様子

お子さんの遊び場を作り
お母さんがリラックスできる
環境のなかで行われました。



その他の情報は、センターHPをチェック!

REPORT



第八期豊森なりわい塾 入塾式

農山村での学びを、24名でスタート



5月19日(土)、第八期豊森なりわい塾の入塾式が行われました。豊田市、トヨタ自動車(株)、NPO法人地域の未来・志援センターの協働事業として2009年にスタートし、今年で10年目になります。社会が大きく変化する中、農山村をフィールドに「あるく・みる・きく」を通して、地域の自然や人々の暮らしに学び、生き方・働き方・社会のカタチを学びます。卒業生の中からは新しい価値観を持ち、新たな生き方・働き方にチャレンジする人も多くいらっしゃいます。24名の八期生の皆さんも一年間の学びから新しい幸せのカタチを見つけれられる事と思えます。(西田又紀二)



(上)塾生とスタッフで集合写真(下右)(下左)フィールドワークの様子



REPORT



「雇われるでもなく起業でもない働き方!？」

ミライの職業訓練校が大ナゴヤ大学とコラボ授業を実施



決められた働き方に自分を合わせる生き方を問い、仲間と共に天職を探すための学校「ミライの職業訓練校」が、5月13日(日)に、大ナゴヤ大学(※)とコラボした授業「雇われるでもなく起業でもない働き方!？」を行い、20名が参加しました。
高野雅夫校長からのレクチャー、移住経験者、これから移住するパネリストの話聞いた後、小グループで自らの生き方・働き方を振り返った参加者からは、「田舎での暮らし方が進化していたので驚いた」、「一人では考えられない学びがあった」、「新しい働き方・生き方の存在を知った」などの感想がありました。



会場は名古屋市中区錦にあるsharebase.InC

今回の授業に出て、現在募集しているミライの職業訓練校の受講生に申込みを決めた方もいました。(木浦幸加)

REPORT



トヨタ生協主催組合向け 「さつまいも苗植え体験」

山村部の自然と味を満喫



5月20日(日)、トヨタ生協主催の組合員向けの「さつまいも苗植え体験」が稲武地区の富永町の畑で開催されました。

晴れ渡る青空と涼風の吹くなか、参加者32名はどんぐり工場の伊藤秀治さんと地元農家の伊藤和久さんのご指導を受けながら、2,000本ものさつまいもの苗を植えました。手慣れていない様子で会話をしながら作業する女性グループ、小さな手で一生懸命に穴を掘って植えているお子さんとご家族の姿が見られました。

この体験プログラムはおいでん・さんそんセンターがコーディネートしており、秋には収穫体験も予定されています。(田中敦子)



(左)親子と一緒に植え付け体験(右)作業の後は、地元のお母さんたち手作りのおむすびと豚汁、漬物を堪能



ならない存在になれた時、稼ぎがついてくる」と気付いた時プロジェクトが好転し始めたことを語っていただきました。

また、昨今地域に若い移住者が増加し子どもが増えている現象や、戸田さん自身がつぶの生業についてお話しいただきました。そして、廃校を活用した「つくラッセル」を始動させた経緯のこと、今後つくラッセルでは、地域の子育て中の女性や高齢者がテレワークにより都市部の企業の仕事を行う働き方に挑戦していく計画があることを紹介いただきました。

企業ファームの効果
午後の第2部は、都市部企業

が山村地域で農業などを通じた社員研修をする事業「我が社の元気ファーム」を企画運営する(株)ジオコス代表の伊藤秀一さんに登壇いただきました。元気ファームを導入した企業の若手社員が、自然の中でおこなう農作業や住民交流をおし、みるみるヤル気を取り戻す姿、社員同士のコミュニケーションが一段と高まり社内活性化に繋がった事例など、多くの効果があがっているそうです。

また、企業CSRや学生インターンシップのフィールド先を、豊富な自然資源や真の自治の営みが芽生える山村地域でやりたいというニーズが近年高まっていることも紹介いただきました。

「はたらく」と「暮らす」を考える
第3部は、愛知県交流居住センターの加藤栄司さんの進行で意見交換会を行いました。

まずは、参加者一人ひとりが感じているこれからの「はたらく」と「暮らす」について思いを巡らせ、そのあと5つのグループごとで意見が交わされました。

今日のゲストの話題や、日頃の仕事で感じているモヤモヤ、つくラッセルのサテライトオフィスの活用アイデアなど、それぞれの思いが交錯する盛り上がりある時間となりました。

参加者からは、「お金があることだけでない生き方をもう一度考えてみたい」、「自然や地域との関わりをもっと仕事に繋げたい」、「家族や仲間との時間を大切に暮らしながら働きたい」といった意見が多く出ていました。単にお金やモノの豊かさを追い求めることだけでない、精神的な豊かさの価値について共有することができました。

**自分らしい生き方
幸せへのヒントに**
今回参加いただいた皆さまには、食やエネルギーなど生活のベースを自給しながら、ICTなど技術を活かし多様に働く「現代的な農的暮らし」の一端を

体感いただきました。

山村地域に芽生える古いよう
で新しい働き方・暮らし方は十
人十色の「自分らしい生き方幸
せの形」のヒントになったもの
と思えます。(坂部友隆)

1. 「我が社の元気ファーム」の説明をする(株)ジオコス代表の伊藤秀一さん
2. 意見交換会では、積極的な発言があった
3. 4. グループワークの様子
5. 昼食は、地元在住のイタリアンシェフの料理を味わった



(※)名古屋市とその周辺で「街」にフォーカスした授業やイベントを企画しナゴヤを面白がる人を増やすことを、ミッションとしている団体